第 71 節　「道」から「街道」へ　　2023 年 11 月　第 70 号

7.1.1　多摩川の川崎市に通じる 9 か所の一般道路橋

昔の多摩川は暴れ川で、鎌倉時代は北方から、江戸時代は南方からの防衛線でした。稲作農耕時代は多摩川や平瀬川の氾濫から身を守る為に、日常生活は多摩丘陵の台地上や裾の開けた大地に小集落を形成し、丘陵からの湧水や川の水を飲料水していた様です。

多摩川にかかる橋は 10 か所あります。皆さんご存じでしょうか、多摩川は笠取山の水干を源流とし小河内ダムを経由した川で、この多摩川に架かる橋は何カ所あるか、お判りでしょうか。Yahoo! Japan で「多摩川に架かる橋は何本あるのか、徒歩で確かめてきた」のサイトを見ると、徒歩で 111km を歩いて調査したそうです。

橋の種類も多々有り、渓谷の吊り橋・人と車の橋・高速道路の橋・鉄道の橋梁・釣やキャンプ場などの簡単な橋・モノレール用の橋・水道水や燃料用のガスを送る橋等々があります。

では質問です。源流から河口までで多摩川に架かる橋は何本でしょうか・

1）　大師橋（だいしばし）

1939 年（昭和 14 年）竣工。当時としては珍しい、ゲルバートトラスト橋だったそうです。当時、東洋一と言われた吊り橋に似た形なので、カナダのケベック州のケベック橋をパソコンかスマホで閲覧するとお分かりになるでしょう。

その後、大師橋は老朽化が進み、新しい橋は 1991 年（平成 3 年）に工事を開始し、1997 年（平成 9 年）の一期工事で 3 車線を、2006 年（平成 18 年）の二期工事で 3 車線を、通行車両止めをしないで完成させました。名称の由来は大師橋の南西約 1 ㎞の川崎大師で、川崎市が管理しています。

2）　六郷橋

1569 年（永禄 12 年）に武田軍が小田原の北条氏を攻めるために関東に乱入した時に、既に橋が架かっていた説があります。その時代頃の歴史書を紐解いても、確実に橋が架けられていたとの結論は出ていません。1600 年（慶長 5 年）に徳川家康の命により、六郷（大田区）～川崎側に六郷大橋が架けられてから、洪水のたびに修復や架け直しが繰り返されましが、1688 年（貞享 5 年）の大洪水による橋の流失を機に、江戸幕府は橋を架けることを断念し、明治に入るまで渡し船による渡河が約 200 年も続きました。

この時代は以前にご紹介したように、川崎側と東京側に農業用水を確保する為に、二ケ領用水の開削工事を開始して 3 年目には六郷橋の架橋工事が始められていた様です。関ヶ原の戦いを絶対に勝利して、江戸への凱旋ルートとすることを考えていたのでしょう。この戦いでは、徳川家康軍が半日で勝利を得ています。

その後 1925 年 8 月（大正 14 年）に 11 代で鉄筋コンクリート造りの六郷橋が竣工しました。現在の二子橋も六郷橋と同じ年に鉄筋コンクリート造りで完成しました。現在の 12 代で 1997 年（平成 9 年）完成の新六郷橋は、「上り橋」と「下り橋」の 2 本を平行に設置し、トータルで 6 車線道路の両側に歩道が付いた形にしています。アーチは無くなり、橋桁は断面箱型の鋼桁橋になっています。橋を

渡る道路は国道 15 号（第一京浜国道）で、毎年新年の箱根駅伝の通過点としておなじみの橋です。

3） 多摩川大橋

現在の多摩大橋は 2007 年に完成し、その前の橋は 1966 年に完成しました。多摩川に沿って砂利線があり、その多摩川砂利木材鉄道は大正末期に開業し、太平洋戦争が終わるまで存続していたそうです。当時、砂利は鉄道の軌道工事などに大量に使用されました。

多摩川大橋は国道 1 号線の現道が通る橋で、この区間は第二京浜国道になります。全長 435.76m／幅 22.8 m。両側に歩道が付いた往復 6 車線という仕様は大師橋や六郷橋と共通です。

現在の橋は 1949 年（昭和 24 年）に竣工した初代の端を、随時改良しながら架け替えをしないで使用している点が異なります。江戸時代以前は、両岸とも武蔵国で、原則として左岸が荏原郡／右岸が橘樹郡ですが、古くはこの辺りで大きく蛇行していたことがうかがえます。

4） ガス橋

1931 年（昭和 6 年）竣工。昭和 35 年に幅員が拡幅され、神奈川県と東京都を結ぶ産業の動脈道としての地位を確立しています。橋の下部には 2 本の巨大なガス管が通され、東京ガスの鶴見製造所で製造された大量のガスを送るパイプラインの動脈となっています。

5） 丸子橋

1934 年（昭和 9 年）竣工。丸子橋の管理は東京都です。 河口から 13.0 km の位置で、鉄道橋を除けばガス橋と二子橋の中間になります。昔の丸子の渡しから 200m上流に、中原街道の橋として、架けられました。徳川家康は、駿府への行き来や将軍の鷹狩り等で、江戸時代にも多くの人々が川崎側に往来していたと想像します。江戸時代はもとより、現在の架橋も遅い理由は、何でしょうか。

6） 二子橋

1925 年 7 月（大正 14 年）竣工。大山街道として有名で江戸赤阪御門を起点とし、三軒茶屋、二子、溝口、厚木を経て大山詣での道として栄えていました。先ほど六郷橋の話で二子橋に触れましたが、現在の堅牢な二子橋は、六郷橋と同じ年に完成しました。二子橋の調査や伝え聞く話では、1923 年 9 月 1 日（大正 12 年）の関東大震災後被災者への救援物資や復興物資の輸送の為、二子橋架橋の必要性が高まりました。架橋の後押しをしたのが、思いもしなかった在京の陸軍部でした。その理由は、多摩丘陵や相模原での演習で、兵員・物資の輸送が不可欠になり、最後には二子橋架橋の実現に陸軍省の強い働きかけがありました。現在の多摩川に架かった橋の中で戦車の様な重量物も運べる堅牢な橋になりました。

大井町線の終点は二子読売園駅（現在の二子玉川駅）でしたが、1943 年（昭和 18 年）に現在の二子橋上を単線で走行して多摩川を渡り、溝口まで延伸させました。陸軍省の後押しが、堅牢な二子橋の誕生となり、電車の運行が出来ました。しかし橋の通行車両が多くなるにつれ渋滞が増加し、1966 年（昭和 41 年）に二子橋の下手に平行した鉄道専用鉄橋を完成させ、大井町線を移動しました。

二子橋を通過するのは大山街道です。大山街道は江戸時代に矢倉沢往還と呼ばれた正式な街道名です。赤坂御門が起点で足柄の矢倉沢関所を経由して東海道の沼津に出た方が、箱根の関所経由（東海

道）より楽なルートであった様です。大山街道は通称で、江戸中頃から大山信仰が盛んになり、大山講として江戸はもとより近郊の村々の人たちが大山詣でに使用した街道なので、大山街道と呼ばれる様になりました。当時の二子宿、溝ノ口宿は賑わっていたことでしょう。

二子橋の上手の 1974 年 3 月（昭和 49 年）に完成した新二子橋を、国道 246 号が通過しています。

2023 年 9 月 1 日（令和 5 年）で関東大震災発生から 100 年になりました。

7） 新二子橋

1974 年竣工。片側 2 車線で国道 246 号のメインルートになっている。

左岸は高架橋（玉川高架橋）に直結し、さらに瀬田交差点付近の二子橋からの旧道との合流部を介して環状 8 号線の瀬田交差点の下を通過する立体交差へと通じている。玉川三丁目付近では歩行者や自転車は地上に降りることができるが、地上の道路整備が行われていないため車道は閉鎖されている。そのため、自動車は瀬田交差点付近の側道との合流部まで地上に降りることはできない。

神奈川県側から二子玉川駅前の繁華街に向かう車が二子橋に集中して渋滞を引き起こすことがあるが、新二子橋経由でも瀬田交差点で転回して二子玉川駅前へ出ることが可能である。なお、新二子橋の車線は軽車両通行止めになっているが、自転車については下流側の歩道を走ることができる。

8） 多摩水道橋

1953 年（昭和 28 年）竣工。多摩水道橋は狛江市内で多摩川に架かる唯一の道路の橋で、東京都道・神奈川県道 3 号世田谷町田線の起点側（多摩川の左岸）が東京都狛江市、終点側（右岸）が神奈川県川崎市多摩区となる都県境の橋です。この道の愛称は東京都側が「世田谷通り」、神奈川県側が「津久井道」と都県境で変わります。川崎市多摩区の長沢浄水場から東京に送水しています。架橋工事も遅く、多摩川に多くあった渡し舟の中でもこの「登戸の渡し」が一番遅く廃止されたそうです。

9） **多摩川スカイブリッジ**

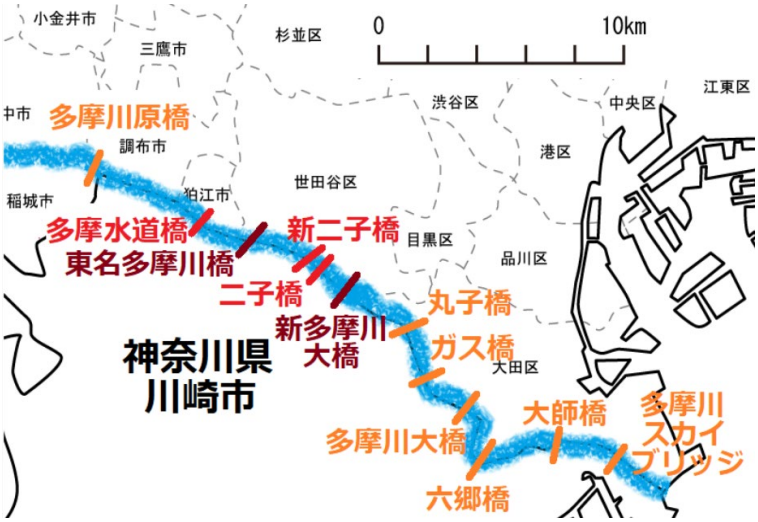
着工、2017 年 9 月（平成 29 年）・完成、2022 年 3 月（令和 4 年）でした。管理者は川崎市です。完成日を見れば、多摩川の多くの橋の中で一番新しい橋です。

形式はラーメン橋（主桁と橋脚（橋台）を一体化）・桁橋（横にかけた橋桁で橋面を支える）で、全長 674m・巾 17.3m・車道は 7.5m の二車線そしてこの橋の特徴は、橋の両サイドに巾 4.9m の歩道と自転車道があるそうです、天気の良い日など、多摩川・海・飛行機の発着など見ながら散歩には非常に良い環境です。

この橋は川崎市の新産業創出する、オープンイノベーション拠点のキングスカイフロントと東京羽田空港の羽田エアポートガーデンを結びます。多摩川に架かる橋で河口から一番目の橋になります。

今まで川崎から対岸まで電車とバスとで約 1 時間、車でも約 20 分かかりました。それが車で約 3 分、徒歩約 10 分で行けるそうです。又、天空駅と大師駅及び浮島バスターミナルを結ぶ路線バスが川崎鶴見臨港バスにより運行されています。

以上、多摩川に架かる多くの橋の中で川崎市と関わりのある一般道路の橋を紹介してきました。
今回の最初にクイズを出した「多摩川に架かる橋の数はいくつか」の正解は、最新の多摩川スカイブリッジから様々な橋を入れて歩かれた方の調べでは「91 ヶ所」でした。現在工事中の、東京目黒通りが川崎市中原区宮内の西下橋につながるので、「仮称（画像は Yahoo Japan から引用）　等々力大橋」が 2025 年に完成すると 2 年東京都後には「92 ヶ所」になります。



（画像は Yahoo Japan から引用）

7.1.2 府中街道

川崎市に関わる多摩川に架かる一般道路橋を、紹介しました。川崎市は多摩川に沿って、南東は東京湾、北西は東京都稲城市・町田市に接しています、この長手方向距離は約 33.1 ㎞（多摩川に接している距離でもあります）、叉南北の巾は約 19 ㎞、更に南北の最短距離があり、約 1.2 ㎞（小田急多摩線の黒川駅近くです）多摩川を渡れば東京都、多摩川の反対側は横浜市に接した、変形した細長い地形です。この細長い川崎市の長手方向には、多摩川にほぼ平行に南武線が走り、更に幹線道路が 4 本、多摩川に沿って「多摩沿線道路」、「府中街道」、「南武沿線道路」、「尻手黒川道路」があります。それぞれ目的があり幹線道路が誕生してきましたが、この中でも歴史的に古くからあり、重要な道路が「府中街道」です、どの様な街道か、紹介しましょう。

府中街道は南武線と並んで重要な街道です。JR・川崎駅付近と西武・所沢駅付近を結ぶ道路の通称です。元々は江戸時代に整備された街道なので、基本的に片側 1 車線の狭い道路で、部分的に片側 2 車線に拡幅された区間があります。

府中街道は古代からの幹線道路にも接し、「府中」の名前の様に、東西に細い川崎市内を経由して、東京都府中市に向かう道です。古くからの始発点は、現在の六郷橋を渡る東海道（国道 15 号線・第一京浜）と思います。現在の起点は川崎市役所の管理上、JR 川崎駅の東口近くの市役所通りの交点になります。終点は東京都東村山市の久米川の交差点で、埼玉県所沢駅まで約 1.5 ㎞です。

反対「方面」は東京アクアラインを通り、千葉県につながります。この様に、川崎市を介して東京都（稲城市・府中市・国分寺市・小平市・東村山市）そして埼玉県に至り、東京湾アクアラインのトンネルを潜ると千葉県につながり、多くの地域を結ぶ古い歴史のある街道です。
＊国道 409 号は、川崎駅付近から内陸側では「府中街道」と呼ばれ、海側の川崎大師までは「大師道」、浮島に入ると「浮島通り」と通りの呼称が変わります。

7.1.3　街道へ古代史のおさらい

多摩川を挟んだ多摩丘陵地帯と東京側の台地は、縄文時代、弥生時代の古代人にとって住み易い場

所と思います。多摩丘陵には貝塚跡、古墳跡、大集落の竪穴住居跡が多く発掘されています。溝口近くの丘陵地には竪穴住宅の大きな集落跡、貝塚跡、古墳跡が多く発掘され、多摩川沿いの高津区・多摩区・中原区と東京側も同様に、古代人には生活が大変し易い場所と想像します。

住み易い条件の一つは、古代から暴れ川であっただろう多摩川が丘陵に近く、川崎側、東京側の丘陵も海抜が高くないので、多摩川の土手の役目をはたし、海に近い位置だったことが理由かもしれません。

西暦 57 年に倭奴国王（わのなのこくおう）が中国の後漢に朝献して、倭奴国王印（金印紫綬）を授けられました。西暦 239 年に倭の女王卑弥呼が帯方郡（＊1）に使者を送り、魏（ぎ）の明帝へ奉献を願いました。帯方郡の太守である劉夏は使者を魏の洛陽に送り、明帝は卑弥呼を「親魏倭王（しんぎわおう）」とし、金印紫綬・銅鏡 100 枚を授けました。西暦 607 年に推古天皇（日本初の女性天皇・厩戸皇子　＝聖徳太子を皇太子にした）が遣隋使として小野妹子を隋に使わしています。時に大礼（だいらい）冠（12 階冠位の第 5)。「日出づる処の天子（下略)」（原漢文）という国書を携行しました（『隋書』)。西暦 607 年に法隆寺の建立。西暦 630 に第一次遣唐使（犬上御田鍬）を派遣（遣唐使のはじめ)。　　（＊1）帯方郡：古代の朝鮮半島に、中国が置いた郡（役所)、日本の官衙（かんが）で、313 年韓族に滅ぼされた

この様に、弥生時代・古墳時代・飛鳥時代の中頃まで（西暦 57 年～西暦 630 年頃)、頻繁に後漢・魏・隋・唐に遣使を送り、これからの運営方法の情報を得ていたのだと思います。

皆様ご存じの時は西暦 645 年、「乙巳の変」（いっしのへん）がおきました。乙巳の変とは、第 35 代皇極天皇（こうぎょくてんのう・二人目の女帝）の時代の朝廷で、大きな権力を持った蘇我氏を、中大兄皇子（なかのおおえのおうじ・皇極天皇の息子）と中臣鎌足（なかとみのかまたり・後に朝廷より藤原の姓を賜り、以後藤原鎌足となり藤原氏の祖となった）とで蘇我氏を滅ぼした「政変」が「乙巳の変」で、現在の教育では、この説明で指導していますが、私のような高齢者達は、この乙巳の変を大化の改新だと教育されてきました。現代の教科書では、「大化の改新」の名称も消去されているようですが、本当でしょうか？

それでは「大化の改新」とは何か。乙巳の変の終わった後、同じ 645 年（大化元年）に即位した第 36　代孝徳天皇（こうとくてんのう）初めに、中大兄皇子、中臣鎌足らと、朝廷集権の政治改革内容を作り、乙巳の変の翌年、646 年（大化 2 年）に、孝徳天皇より発布された「改新の詔（みことのり)」に示された今後どの様な改革をするかの改革の内容と、この内容を実際に行動して、形に残して人に示して、見せて行くことが、「改新」となるのです。

余談ですが、日本の和暦年号名の始まりは、この「大化」が最初となります。天皇を二人紹介しましたが、天皇家は、皇祖天照大神(あまてらすおおみかみ・日本神話の主神として登場）から発して、初代は神武天皇から数えると、上皇さまの名前明仁（あきひと）上皇さまで第 125 代、今生天皇の名前は徳仁（なるひと）今生さまで第 126 代となります。

「改新の詔」で日本全体が中国の制度を参考にした律令制の時代は 7 世紀後半（飛鳥時代 592 年～710 年後期）から 10 世紀頃（平安時代 794 年～1185 年の中頃）まで実施されましたが、 8 世紀初頭（奈良時代 710 年～794 年）から同中期・後期頃までが、最盛期と言われています。645 年から孝徳天皇や中大兄皇子（後の天智天皇）が進めた大化の改新の 4 つの施策は以下です。

①豪族たちの私有地を廃止　②中央による統一的な地方統治制度の創設　③戸籍・計帳・班田収授

法の制定　④租税制度の再編成です。現代の平成時代の 20 世紀中後期頃までは、大化の改新が日本の律令制導入の時期と理解されていましたが、1967 年 12 月に藤原京の外濠から木簡が発見され、その木簡の内容から「改新の詔」の文章は「日本書紀」の編纂時に書き換えられたことが分かったそうです。大化の改新の諸政策は、後世の為に「事実を誇張したり、変更している」ことが分かったそうです。日本書紀はすべて中国の古代の中国語で作成され、天智の始まりから第 41 代持統天皇時代の完成（720 年）で、中国に対する様に作成されたのではないかと推測します。

一方「古事記」はすべて漢字ですが文脈は日本語なので、日本書紀と同じ天地の始まりから第 33 代推古天皇の時代 712 年に完成させていますので、古事記が正しい内容ではないか、大化の改新は「日本書紀」に書かれているほど画期的な改革ではないとの見解に傾いている様です（TV の BS・TBS 番組 歴史鑑定他からの情報）。

しかし、律令制時代は中央集権なので、日本全国（当時は北海道を含まず）を統治する為に、指示の伝達や税の物品輸送に道路が必要になります。稲作が確実に始まったのは、農具や水田址が見つかる縄文時代後半から古墳時代と私は考えます。弥生時代には青銅器と鉄器の材料や器具を輸入に頼り、日本で純粋に砂鉄・鉄鉱石を製造・出荷出来るようになったのは、たたら製鉄（日本の古代から近世にかけて発達した製鉄法。炉に空気を送る「ふいご」が「たたら」と呼ばれていたため）の原型となる製鉄技術が朝鮮半島から伝来、６世紀の古墳時代に確立しました。

ほぼ同時期に日本に鉄器・青銅器が伝わったので、耐久性や鋭利さに劣る青銅器は祭器として、鉄器はもっぱら農具や武器としての実用道具として使用されました。この様な最先端の道具は日本全国に伝わらないはずがないので、既に全国に道はあったと強く思います。皆様はどの様に考えますか。

この当時の道には馬や荷車が使われたかは分かりませんが、紀元前時代から日本全国につながる道が無ければ、稲作も道具も日本全土に伝わらないと考えます。

人生を豊かに（雑学のすすめ）　**動脈硬化とマグネシウムとビタミンＫの関係**

動脈硬化の進行には、マグネシウムの欠乏が関与していると言われています。近年、カルシウムとマグネシウムの血中バランスは１：１が理想と言われています。マグネシウム欠乏はなぜ起きるのでしょうか。一番多いのがストレスの持続です。

ストレスを受け続けている人ほど、尿中へのマグネシウムの排出量が非常に増えます。そのために血管が収縮して高血圧が引き起こされます。ストレスが多い人が血栓症、動脈硬化や高血圧になりやすい理由です。

高齢者が胸部レントゲンを撮影すると、基本的に映るはずのない血管の一部が見えることがあります。血管に石灰化したカルシウムがくっついてしまうと、白く映ります。これは動脈の石灰化、つまり動脈硬化が起きていることになります。これには、実はビタミンＫが効くのです。

ビタミンＫは血を固めるビタミンで知られています。「血液をサラサラにする薬を飲んでいるから納豆を食べてはいけない」とよく言われますが、日本で納豆を多く食べた人が、実際に血が固まって困ったとは聞いたことがありません。　　（脳の退化を防ぎ人生を楽しむ！　加藤久美子から）

【汗は 99%が水分、でもなぜ臭うの？】　は第 10 章に移行しました

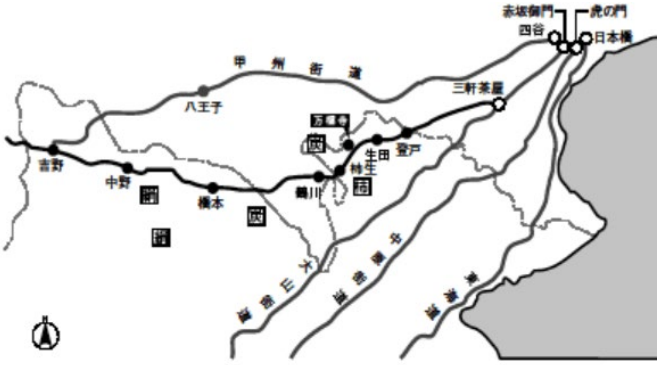
第 72 節　川崎市を横断する道－津久井道

2024 年 4 月　第 75 号

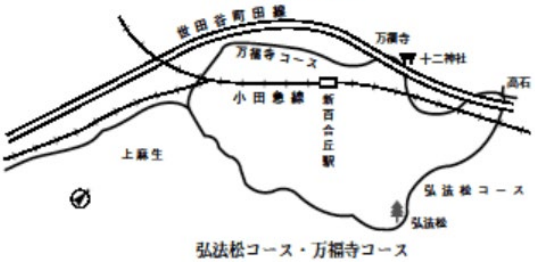
7.2.1　津久井街道の位置

旧津久井道は生田・柿生・鶴川に向かい、その先の鶴見川上流に沿っ て橋本から津久井地方に至る江戸時代からの道で、東は多摩川を渡り三軒茶屋で大山街道と合流して赤坂御門まで続いている道です。 近隣の産物を江戸へ運ぶ流通の道、商人や職人の往来する道として 使われ、登戸周辺は宿場、商店（下駄、提灯、畳、馬具等）、居酒 屋、宿屋が軒を連なり、賑わいや交流など活気に溢れていました。

津久井道は明治時代から大正六年の地図によると、現在の世田谷町田線の万福寺と高石の境付近から弘法松を通り上麻生へ抜ける弘法松コースと、それよりも新しく出来た道で、追分の坂を下り十二神社の近くで世田谷町田線を横切り区役所の北側を通りしばらく進んで小田急線の高架をくぐり抜ける万福寺コースがありました。しかし、万福寺コースの道は地盤が悪かったので、人々は弘法松コースの方を利用していた様です。大正十年にこの地域で陸軍の大演習が行われ、その際大砲等の重機を運搬出来るようにと、万福寺コースを整備してからは弘法松コースにかわり万福寺コースが本道になりました。



江戸時代街道図



弘法松コース・万福寺コース

（画像は Yahoo Japan から引用）

7.2.2　（津久井街道と諸々の道の起源）

実は津久井街道がいつ頃から出来たか、はっきりしていません。皆様のご意見は如何でしょうか。

以前ご紹介した「道」の話で、古代から道は「獣（けもの）道」が発展したことをご紹介しました。しかし、地球上に人類が住み始めて、生きるため「獣道」で獣類の狩猟や、食べられる実、果実、草類、魚や鳥類を探して往来していると、通った道がいつの間にか踏み均されて道らしき物が出来てきます。日本の旧石器時代、縄文時代に隣の集落や遠くの集落と往来し、日本列島に石器類や土器類が使用され始めると、広範囲に広がって道が出来てきたと思います。

更に、弥生時代（紀元前 300 年～250 年頃）の後半から、水田耕作、青銅器や鉄器が大陸から伝わって来ました。当然、今までの道を往来して日本列島に伝わり、更に情報の交流が盛んになるにつれて道が完成していったと考えられませんか。

以前、「五畿七道」の話を紹介しました。現在の日本の幹線道路の基本になる道路を整備した内容です。大化の改新の改新事業の一つです、これが西暦 646 年（大化 2 年）以降に七道（東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道）の整備がされました。しかし、もっと以前の 4 世紀頃（西暦 300 年代）には日本武尊（やまとたけるのみこと）が東征で関東方面に来た時に、現在の東海道を通り西から駿河まで進み、更に相模の走水（はしりみず）（浦賀水道）を渡って千葉に入りました。この時、海が荒れて妃の弟橘媛（おとたちばなひめ）が海に身を投げることで海を鎮（しず）め、無事に日本武尊を千葉に渡らせたそうです。当時は現在の鎌倉当たりから川崎方面には、東京湾に注ぐ河川や湿地帯が多く、道路は有っても整備技術がないので、現東京方面には中原街道（当時の名称は不明）が使用されたと考えます。

海に身を投げた弟橘媛（おとたちばなひめ）を祀っているのが川崎市高津区子母口の橘樹（たちばな）神社で、流れ着いた衣服や冠を祀っています。橘樹神社は古くには立花杜とあり、「村の西に寄てあり、祭神は日本武尊、弟橘媛の二神なり・・・」と古書にも書かれています。

この様に「道」は古代から幹線、脇道、生活に必要な道、情報伝達等、様々な道が多くあったことは想像出来ます。津久井街道もいつの時代に出来たかは不明ですが、古（いにしえ）から時代の変化と共に、大切な道になっています。人々の往来が多くなったのは、江戸時代からです。

街道とは「町の中の広い道」との意味です。田畑、山や隣の部落への道と比べると、町と町をつなぐ道は現代の整備された道よりは狭いのですが、明治時代以前の道の中でも幅の広い道だったのです。これを「街道」と称したのです。

津久井道を含めて、古から川崎市を横断して江戸幕府を盛り立てた道として、また日本の重要な道路として東海道を支えた中原街道、大山街道（後日紹介します）、今回の津久井街道は、古から鎌倉街道、東海道、甲州街道等を補佐しています。道は相互につながって助け合っているのも事実です。

耳寄り情報

【京大アメフト部の名将・水野彌一監督からの言葉？】

京都大学理事の野崎治子さんが京大アメフト部を 4 度の日本一に導いた名将・水野彌一監督から言われた言葉です。アメフト部に入部してからすぐに、「マネージャーの仕事はユニフォームを洗濯することではない。部員が自分でユニフォームを洗濯するように、環境を整えることや」と。自分で動くのではなく、他の人が快く動けるように環境を整えることがマネージャーの仕事と刷り込まれたそうです。

いまの人は短絡的にコスパだとかタイパ（時間対効果）を意識して、すぐに To Do に走りがちやけど、大事なのは To Be や。To Be を目指す哲学を持て」、この教えは特に残っているそうです。

飲んではいけない飲み物―あなたも飲んでますか？　　は第 10 章に移動しました

第 73 節　国道 409 号線

2024 年 8 月　第 79 号

7.3.1　川崎市の国道と鎌倉

川崎市には 6 本の国道があります。番号の小さい順に挙げると次のようになる。R1(第 2 京浜国道)、R15(第 1 京浜国道)、R132(富士見通、川崎駅から市営埠頭の千鳥橋まで)、R246(旧大山街道に沿ってはいるが特に名前はない)、R357(東扇浮島の内部だけに存在するおそらく日本最短の国道、当然名前はない)、R409(その 1 部分が府中街道と呼ばれる)。

R409 は西方面に進むと府中街道の東名高速道路までで途切れますが、府中街道はさらに府中に向かって続きます。東に進むと河原町あたりで大師通りと一体となり、R15 までが府中街道です。R409 はさらに大師通りを進み、東京アクアラインを経て千葉に向かいます。

R409 が川崎市内を時縦断する国道で、概ね多摩川に沿っているため、北からの侵略に備えたであろう城跡が点在します。また川崎市を横断する古くからの道は鎌倉へ向かう道とされ、多摩川の南側の丘陵地を超える前後にお寺があるのが普通でした。鎌倉時代には峠越えには危険が伴っていたのでしょう。そこまでして目指す鎌倉について考察しましょう。

源頼朝による鎌倉時代の成立は 1192 年（いいくに・建久 3 年）の征夷代将軍に任ぜられた年と教育されたと思います。しかしこの年が鎌倉幕府の成立だといわれる決定的な結論が無いので、年代順に学説をご紹介します。

① 1180 年　頼朝が東国支配を樹立し（富士川の戦いで勝利）鎌倉を本拠地に家臣（御家人）統制する「侍所」を設置。「この時に、すでに南関東全域を支配下にしていた」

② 1183 年　朝廷から頼朝の東国支配権を承認する宣旨を下す。「朝廷が頼朝に東国限定の条件付きですが支配権を認めた」

③ 1184 年　頼朝が主要政治機関（公文所・問注所）を設置。「政務、裁判の仕組みが整った」

④ 1185 年（いいはこ）守護・地頭を設置して、全国の土地管理権を掌握。「頼朝は諸国に守護・地頭を置く権利を得た」

⑤ 1190 年　頼朝が右大将（右近衛大将）。日本国総追補使・総地頭となる。「頼朝は征夷代将軍よりさらに上位の官職の右近衛大将に任命された」

⑥ 1192 年　頼朝が征夷代将軍に任じられた。「2 年前に征夷代将軍を飛び越した官職を得ているので。改めて任命されたと考えられる」　以上様々な学説が有ります。

このように成立した鎌倉幕府ですが、平家滅亡後、頼朝の権力の強大化を恐れた後白河法皇は義経に、兄頼朝の追討を命じました。それを知った頼朝は京都に軍勢を送り後白河法皇に圧力をかけ、「諸国に守護、荘園や公領に地頭を任命する権利や、1 段（反）当たり 5 升の兵糧米を徴収する権利、さらに諸国の国衙（律令時代の国司の役所、地域）の実権を握る在庁官人を支配する権利を獲得した。東国中心であった支配権は、国にもおよび、武家政権の鎌倉幕府が成立に至ったのが④の 1185 年（文治元年）かと思いますが、数ある説の一つであり、この時期を有力視するのは、昔の説の 1192 年に征夷代将軍に任命される前から「実質、源頼朝を中心とする、支配体制が確立したのではないか」と考えられるからだそうです。（参考資料：帝国書院、東洋経済、塾講師 station 情報局）

7.3.2 鎌倉幕府の終焉

分倍河原は府中市の中心部にあり、かつて新田義貞が率いた関東武士団と鎌倉幕府軍との戦いが行われた古戦場があります。この戦いに勝利した新田勢は、鎌倉を目指して進撃します。鎌倉幕府滅亡へと向かう、歴史の転換点の一つが分倍河原だったのです。地名の「分倍」は旧地名からで、別に「分梅」の名もあったそうです。また「河原」は江戸期以前に多摩川の河原があったことによるといわれ、この二つの地名を合わせ、現在の名になったそうです。なお同地には京王線とＪＲ南武線が乗り入れる駅がありますが、最初は駅開設当時の地名であった屋敷分村に由来する「屋敷分駅」の名で呼ばれていました。府中とは律令制時代（註１）に国から派遣された国司が政務を行う建物がある国府所の所在都市がある場所です。（武蔵国（註２）の国府）近くに国分寺などもあります。

（註１）律令制時代：律令時代への準備が 645 年の大化の改新。（乙巳の変・いっしのへん）をきっかけに７世紀の後期（飛鳥時代の後期）にかけて改革が始まりました。そして、701 年（大宝元年）に倭国から国名を日本に改め、大宝律令を成立させて、10 世紀頃（平安時代）まで続きました。

（註２）武蔵国：律令制に基づいて設置された地方行政区分の一つで、東山道、のちの東海道に属し、現在の東京都、埼玉県、神奈川県の川崎市、横浜市となります。

（源頼朝の妹婿－稲毛三郎重成）

新田義貞が 1333 年（元弘３年）５月８日に挙兵し、「小手指原の戦い」「久米川の戦い」「分倍河原の戦い」そして「関戸の戦い」までの９日間、川崎市の近く、現府中市の国府の近辺で戦があったとは驚きです。更に６日後、挙兵後の 150 日間で鎌倉幕府を滅亡させた人馬の移動の戦いでは、当時の武蔵国の幹線道路と思われる「府中街道（川崎街道）」を、武蔵国に入った新田義貞（上野国－群馬県）が利用して攻め上がったことには考え深いものが有ります。鎌倉幕府滅亡に「府中街道」が一役買っていたと考えられませんか。日本は鎌倉時代から室町時代に移行した歴史上の転換期でした。

現在の JR 南武線の登戸駅近くに枡形城跡、津田山駅近くに作延城跡、そしてよみうりランドの近くには小沢城跡が有ります。多摩丘陵の先端にあるこの三つの城跡は、稲毛三郎重成が築いたと伝えられています。平安時代末期から鎌倉時代初期の武将である重成は桓武平氏の流れをくむ秩父氏の一族で、鎌倉時代の御家人です。1180 年（治承４年）８月、伊豆で挙兵した源頼朝とは平氏方として敵対しましたが、同年 10 月秩父一族と頼朝に帰伏して御家人になりました。その後、頼朝の正室（北条政子）の妹を妻に迎えています。そのため源頼朝は稲毛三郎重成を訪れ、綱下げの松に、御座船を繋留しました。その後重成は亡妻のために相模川に橋を架けた時の落成供養に出席した頼朝は、帰りの道中で落馬して命を落としています。

頼朝の嫡男、「源頼家」（当時 18 歳）が 1199 年（正治元年）に二代目将軍を継ぎましたが、まだ若かったので、北条氏中心の「13 人の合議制」による政治体制を敷きました。そして北条時政・義時父子は有力御家人を次々と滅ぼしていきました。最初は 1200 年（正治２年）の梶原景時の変です、さら

に 1203 年（建仁 3 年）の比企能員（ひきよしかず・二代目将軍源頼家の乳母父であり、比企の娘が頼家の妾であり、その為比企は権勢を持っていました）の変です。

初代将軍「頼朝」の死後 4 年の 1203 年（建仁 3 年）に、第二代将軍の頼朝の嫡男である「源頼家」が重病になり、祖父となる北条時政によって頼家は伊豆の修善寺に幽閉さました。その後継は、初代将軍「源頼朝」の次男で第二代将軍「頼家」の弟である「源実朝」が、1203 年 9 月（建仁 3 年）第三代将軍を継ぎました。この頃は執権・北条時政が政所別当を手に収めて北条の独裁政治の一歩を踏み出していました。「実朝」は現在の政治には期待を持てないとわかり、京都風の文化と生活を楽しむことを考えました。その為、関東武士の信頼も薄れ、1219 年(建保 7 年)1 月、第二代将軍頼家の子共の公暁（こうぎょ）に暗殺されてしまいました。

もし源義経が生きていたら、鎌倉時代の歴史も変わっていたかもしれません。さすがに北条一族も征夷大将や将軍なることは良くないと考えたのか、執権政治を通して鎌倉幕府を収めました。その内の功績の一つは、「御成敗式目（武家社会での習慣や道徳をもとに制定した、武家政権のための法令）制定し、公武が分離されたことでしょうか。

以降、実権は北条政子を経て、北条泰時を「祖」とする幕府権力は本家（得宗家・北条時政が初代）に集中し、北条氏は将軍ではなく執権役として実権を振るいました。得宗家に反抗する名越流（なごえりゅう）北条氏等の傍流や御家人（下級武士）は排除されました。

名越流北条氏は、北条義時の次男・北条朝時を祖とする鎌倉時代の北条氏の分流です。名越の地にあった祖父・北条時政の邸を継承したことで名越を称し、母方の比企氏の地盤を継いで代々北陸や九州の国々の守護を務めました。創設当初の名越流の家格・勢力は得宗家に次ぐものでしたが、名越流からは執権・連署・六波羅探題は 1 名も出しておらず、要職は評定衆や鎮西探題などに留まり、その得宗家に対抗しうる家格の高さが得宗側から警戒されていたとみられたそうです。名越流はその本来は嫡流であるとの意識の強さから、たびたび得宗家と対立し、数度の討伐を受けています。

北条氏の執権政治の功績の一つは「御成敗式目」（道理と呼ばれた武家社会での慣習や道徳をもとに制定された、武家政権のための法令（式目））制定で、公武が分離されました。また執権北条時宗の時代に 2 度の元寇（げんこう）の襲来を撃退した武家たちから、十分な恩賞を得られなかったことによる不満が強まりました。1293 年（永仁元年）には平禅門の乱（へいぜんもんのらん）が起き、鎌倉幕府を支配する北条氏得宗家で絶大な権力を振るっていた内管領の平頼綱が、9 代北条貞時によって滅ぼされました。

蒙古襲来後貨幣経済の浸透、多くの御家人の経済的な没落、御家人への恩賞不足、承認による御家人へのお金の貸し渋り等、御家人の不満と混乱を引き起こしました。後醍醐天皇による鎌倉幕府打倒は、この武士達の不満を利用しました。

7.3.3 後醍醐天皇の暗闘

後醍醐天皇は大覚寺統の天皇で、天皇による天皇を中心とする親政を理想とし、クーデターにより武家政権の鎌倉幕府を打倒し建武の新政を行いました。その後、軍事力の中核であった実子を粛清した事と失政により失脚し、一地方政権の主として生涯を終えました。建武の新政は 2 年半で崩壊し、足利氏の武家政権に戻ることとなり、朝廷の支配力は鎌倉時代以上に弱まることになりました。

両統迭立（りょうとうてつりつ－鎌倉時代に皇統が 2 つの家系に分裂し、治天と天皇の継承が両統迭立の状態）により、実子に皇位を譲位できず、上皇になって院政を敷いて権力を握れなかった後醍醐天皇は、鎌倉幕府の両統迭立を壊すために、倒幕運動を行いました。元弘の乱で鎌倉幕府を倒して建武新政を実施したものの、間もなく足利尊氏との戦い（建武の乱）に敗れたので大和吉野へ入り、南朝政権（吉野朝廷）を樹立し、尊氏の室町幕府が擁立した北朝との間で、南北朝の内乱が勃発しました。尊氏が征夷大将軍に就任した翌年に、吉野で崩御しました。

室町時代はいつから始まったのでしょうか。1336 年（延元元年）5 月に足利尊氏が湊川の戦いで楠木正成を破り、後醍醐天皇が比叡山に退去した時か、同年 11 月に足利尊氏が「建武式目（けんむしきもく）」という基本法を制定した時か、もう一つは 1338 年（暦応元年）8 月に足利尊氏が征夷大将軍（せいいたいしょうぐん）に任命された時かと諸説あります。15 代将軍義昭が織田信長によって京都から追放される 1573 年（天正元年）の室町幕府滅亡までの 235 年間～237 年間まで、室町幕府は続きました。

人生を豊かに（雑学のすすめ）　Four score and seven years ago で 87

英語で「数える」という意味の 1 つに tally という語が有ります。もともとは「刻む」の意味です。指は 10 本ですが、靴下を脱いで足の指を入れても 20 迄しか数えられません。また競技の得点は score と言い「数える」との意味です。この語にも「刻む」との意味が有り、北欧語で昔羊を数えるのに手と足の指を使い、20 頭毎に棒切れ等に刻み目を入れたことに由来しています。音楽の楽譜もスコアと呼び、音符の刻み目を入れることに由来します。

score には 20 という意味が今でも残っています。アメリカの初代大統領アブラハム・リンカーンのゲディスバーグでの演説（1863 年）の冒頭は、”Four score and seven years ago ･･･”で、4＊20+7 で「87 年前」という意味です。

米国史上最も重要な演説の 1 つと見なされているエイブラハム・リンカーンの「ゲティスバーグ演説」は、アメリカ合衆国が拠って立つ自由と平等の原則を表現することに成功しています。そして米国の生存のために戦い、命を落とした人々の栄誉を誇らかに称えている。リンカーンは演説の中で、米国のための「自由の新たな誕生」に言及しました。演説は 1863 年 11 月 19 日、ゲティスバーグ国立戦没者墓地の開所式で行われた。全体でわずか 2 分ほどの演説でした。

東京裁判は起訴状の翻訳に間違いがある？　は第 10 章に移動しました